

とっとい・グローバルウォッチ

第96号 2014年11月21日発行

東南アジアビューロー レポート 11 中国地方インバンドフォーラム

タイにおいて、観光商談会を行い、日本の中国地方をPRした。

タイ市場において、訪日旅行に実績・意欲のある旅行エージェントや強い情報発信力を有するメディア関係者を招聘し、中国地方の観光資源の魅力について観光情報説明会及び商談会を実施し、タイ人旅行客の誘致を目指した。

10月29日、「ビジット・ジャパン地方連携事業2014中国地方インバンドフォーラム観光情報説明会・商談会・意見交換会」が中国地域観光促進協議会、国土交通省中国運輸局主催にて、バンコク中心部アソークの交差点にある、グラウンドセンターポイントターミナル21にて開催された。日本側から23団体、タイの旅行社約43社が商談会に参加した。

主催者・来賓の挨拶後、観光情報説明会を経て、今回のメインである商談会に移った。日本側観光関係者は通訳付きの各ブースにて、各県、団体、観光地、ホテル等のパンフレットをならべ、タイ側へPRした。

タイ旅行社・メディア側は、1ブース約15分という決められた制限時間内に情報を収集する。商談が始まると、簡単な日本語が話せるタイ旅行社の担当者も多くて驚く。これまで実施したツアー内容を聞くと、やはり東京、大阪、北海道が圧倒的に多く、今後の新企画として大阪近辺から少し足をのばしたツアーを考えているようだ。

タイ人の多くは、静かな温泉街や日本古来の街並みを散策することで感じる日本情緒や、豊富な海の幸を味わうことに興味を持っているようだ。露天風呂や大浴場に入る際の専用の衣服についてや、コンパクトで持ち運びやすく、その地に

行ったとわかりやすいお土産やマスコットキャラクターの有無などの質問の他、人気のズワイガニ食べ放題があるかどうかといった質問がなされた。

タイ人は、日本人とはまた違う観点で観光地の魅力や価値を感じているので、その目から見た質問や要望は興味深い。このようなことを踏まえたPRやパンフレットを用意してみるとまた違ったタイ人の反応が得られるかもしれない。

商談会は1時間45分ほどで終了し、その後軽食を伴った意見交換会にて交流を深めた。今回の商談会等で得た情報が今後、タイの旅行社の企画に少しでも反映され、中国地方の観光の促進につながることを期待する。

中国地方は、山陽の温暖な気候と山陰の冬の雪の両方の良さがあり、海の幸山の幸、おいしいフルーツにも恵まれている。鳥取砂丘、鬼太郎やコナンなどのマンガ、出雲大社や石見銀山、倉敷や湯郷温泉、宮島、アウトレットパーク等、よく見ると何でも豊富にそろっている。その良さが、今回の商談会でタイ人旅行関係者に伝わっていただければいいと感じた。



写真：商談会風景

【鳥取県東南アジアビューロー 川南】

目次：

東南アジアビューロー レポート 11	1
現地発！ 台湾月刊レポート 89	2~3
アンニョンハセヨ KOREALレポート 30	4
ロシアレポート 16	5
最新の上海 ～現地レポート～ 80	6
中国進出日系企業 レポート	7~8

現地発！台湾月刊レポート 89 台湾輸入についての注意と黒心油問題

現在、日本では外国人観光客が増えている。多くの台湾人も日本を訪れ、買い物を楽しみ、国へ持ち帰ったり、郵送したりしている。そんな中、台湾側では、様々な輸入規制が相次いで行われている。

その現状と、台湾で発生している食品問題について述べてみたい。

■ 外国人の「大人買い」

先日、台北へ向かうため成田空港を訪れた際、税関に寄り、外国人の購買状況についてヒアリングを行った。11月3日午前の消費税免税処理件数は、なんと三千件！以前は一人に対応していたが、現在は二人でないと対応できないらしい。10月からの外国人(非居住者)に対する消費税免税が大きく影響し、外国人の爆発的消費を誘っている。

新聞記事に「ドンキホーテにおける外国人の買い物がすごい」との記載があったため、浅草に新しく開店した店を訪ねてみた。

東南アジア人と思われるカップルが、買い物カゴ3個にお菓子を満載してレジに並んでいた。店員は中国人店員が目立ち、店内外には免税措置の看板が張り巡らされ、スピーカーでも英語、中国語で呼びかけていた。一方、日本人消費者の姿は少ない。外国人に期待する同店の戦略がかいま見えた。



写真：ドンキホーテの入口

成田空港の税関係官によれば、中国人はもちろんのこと、観光ビザが廃止されたタイ人の買い方がいわゆる「大人買い」で、その大量の買い物に係官も驚いている様子だった。

外国人の購買力が増すということは、各百貨店等の店で売上が増えても、消費税税収が増えないことを意味する。日本人は、増税により購買量が落ちていることが統計によって明確になっている。さらに円安により、輸入品の価格は上昇。日本人は、増税と石油等輸入品の増額に苦しくなる一方であるのに対し、外国人は円安の恩恵と免税措置でバーゲンセール状態。外国人の購買が日本経済を好転へと導く起爆剤となるのか、あるいは、日本の内需の弱さを助長するのか、綱引きが続く。

■ 台湾側の輸入規制

この日本の消費税免税措置も影響したのだろう。台湾政府が動いた。台湾人個人が海外から輸入する品目を2015年7月より厳しく統制することを決めたのである。変更内容を下記のとおり。

「薬物様品贈品管理法」という法律規定を改訂した。薬品(ビタミン剤等を含む)を台湾へ郵送する場合、12瓶または1,200粒までと制限がある。これを超えると6ヵ月以内は、再度輸入ができない。つまり郵送する場合は、一年に2回まで。これに違反したものは、10年以下の懲罰が下されるといふ厳しいものだ。そしてハンドキャリーにも制限があった。1回に持ち込める薬品は、6種類までで量も制限付き。人気の日本商品である正露丸、胃腸薬、ビタミン剤、メンソレータム、龍角散等はすべて該当する。

ここで、日本と関連する台湾において輸入が規制されている品目について整理したい（証明書等があれば輸入が可能なものもある）。

①肉類等 生肉(牛、豚、鶏、羊、鹿かも等々)は、もちろんのこと、牛乳、卵、ビーフジャーキー、真空パック肉類、ハム、ベーコン、ソーセージ等はダメである。但し、缶詰類はOKである。鮭、鱒、エビなどもダメ。真空パックのカニ類もダメ。明太子及びイクラはOK。ここで注意したいのは、日本のインスタントラーメン。スープに肉類粉末が入っているが、2014年から持ち込みできるようになった。昨年、私の友人は、台湾松山空港で見つかり、全て没収されたとのこと。

②植物類、新鮮な果物類は絶対に持ち込んではいけない。但し、乾燥果物はOKである。

③酒類は、1リットルまで。日本酒だと一升瓶は持ち込めない。普通のタバコは200本まで。10箱である。日本に比べて結構厳しい。もちろん20歳以下の子どもは持ち込めない。

①～③以外にも持ち込み品は規制されている。もし疑義がある場合は、たびたび変更されるので事前にチェックして欲しい。

■ 食品油問題「黒心油」

現在、台湾では食品油問題が拡大している。この油を「黒心油」と呼ぶ。これは、食用に適さない動物の死体から取った油。価格が安いのでベトナムから輸入され、食品油に混ぜられた。台湾人も最近では絶望感から諦観の境地に至るほど浸透していた。ちなみに、ここ十年来台湾を訪問した日本の皆様も、ほぼ全員が食べていると思われる。それほど大メーカーが絡んだ事件。この事件により、台湾で一番売上がある中秋節は大変な騒動になった。中秋節の前日、「黒心油」の浸透が明らかになり、前々日まで

月餅を買い求める数百メートルの行列ができていた有名月餅店が、一夜にして返品、返金を求める民衆による罵詈雑言が飛び交う修羅場と変わった。月餅店が使用していた大手食品油メーカーの油が「黒心油」であったからだ。被害者であるはずの店員が、顧客から罵られ、イジメられ、すすり泣いている様子がテレビに写り、気の毒であった。

お菓子関係の業者団体によると三割の売上減少。日本のガイドブックでも有名店である「李告鳥」「犁記」の顧客への賠償金は、四千万円近くになっているとのこと。中小企業は倒産の危機に陥っている。台湾で有名なパイナップルケーキにももちろん、この「黒心油」が使われていた。台湾全体では、20億円の売上が消滅したとしている。業者は、代替油を使用し始めたが、原材料価格は四倍近くになり、原材料費の高騰、売上減少、かさむ賠償金、逃げる顧客という最悪の危機に陥っている。

■ 日本の安心・安全な食

他社の弱みにつけ込むのは卑怯だが、毎日食す食品のこと、安全な食品を求める人々が多いため、台湾市場を狙っている外国メーカーにとっては、草刈り場となりはじめている。安全な日本食品の出番である。ところが、黒心油問題に感化されたのか、日本の食品の放射能汚染も深刻だというのだ。現在、台湾では「福島、栃木、群馬、茨城、千葉」の5県からの食品輸入を禁止している。しかし、これでは汚染されている放射能汚染食品が台湾に入ってくるのが防げないとして、日本からの輸入食品全品に、生産地証明をつけることを法制化する動きである。とばっちり、問題の責任転嫁としか思えない。

円安、安心・安全な鳥取県の食品にとっては、またとないチャンスであるが、ハードルも付けられた。食品輸入情報は、日々変わると思われるので、注意されたい。

アンニョンハセヨ KOREAレポート 30

安心・安全な「DIY食品」

■ DIY市場

日本でも浸透している『DIY』（Do it yourselfの略語）は、韓国でも全年齢層に渡って人気を集めている。以前は、趣味として行っていた人が多かったが、最近の長引く不況下では、経費節約という面でも人気を集めており、インテリアや家具だけでなく他分野に渡っている。その一つが食品だ。

韓国では、食の安全に対する関心が高くなっており、手作りを打ち出した『DIY食品』の需要が高まっている。DIY食品セットや家庭用の製造機を用いて、安心・安全なおやつ作りを楽しんでいるのだ。

■ 特別なプレゼント

韓国でも、2月14日バレンタインデー、3月14日ホワイトデー、11月11日ポッキーデーなどイベントがあり、日本と同じようにお菓子をプレゼントする。主に、10代の若者が片思いの相手や恋人にキャンディーやチョコなどを贈る。彼らは、それらを手作りすることで費用を節約しつつも、個性を出し特別感を演出する。最近では、ケーキを独自にデコレーションできる店が人気を集め、10代だけでなく20～30代の大人も特別なプレゼントづくりに夢中になっている。

■ 子供のおやつは自分の手で

ジャンクフードが大好きな大人も、子供を持つ親となれば話は別だ。最近は特に過敏な反応を見せるようになり、自分の手で安全なおやつを作る傾向にある。以前は、手作りお菓子は健康だが美味しくないという偏見があったが、近ごろは子どもの好みに合わせて作れる機械も増えており、オンラインショッピングモールではスムージー、綿あめ、チョコレート製造機械などの売上が前年に比べ2倍以上急増している。

■ DIY食品市場の将来

DIY食品は、安価かつ安全という点から、現代社会のニーズを満たしている。特に、自分の手でつくることにより安心・安全が実感できることが、他の食品と差別化され、成長分野として期待が高まる。しかし、万が一、消費者がその安全性を疑う事態が発生すれば、その市場は一気に収縮することが予想されるので、進出を考えている企業は注意が必要だ。



DIYによるデコレーションケーキができるまで

ロシアレポート 16

2014山陰(鳥取・島根)ブランド展inロシア

9月26日、27日の2日間、ロシア ウラジオストク市内、アンダーグラウンド（経済サービス大学）にて「2014山陰（鳥取・島根）ブランド展inロシア」が開かれました。

鳥取県からは、カレー、化粧品、お茶、梅ドリンク、コーヒーなど、島根県からは、調味料、お茶、ミネラルウォーター、菓子、包丁、アクセサリーが展示されました。

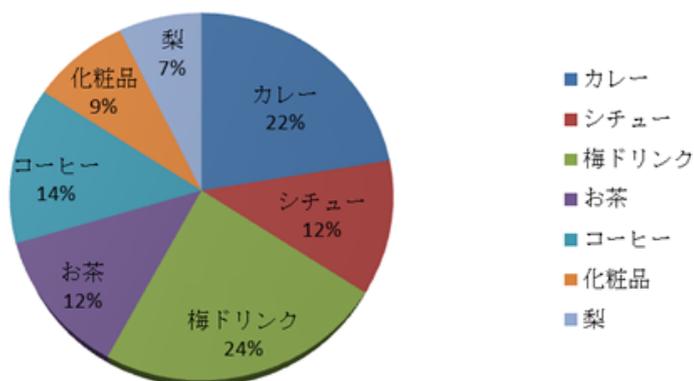
企業は自社商品を紹介するとともに、現地スーパーの協力を得て販売も行いました。ウラジオストクでこのような展示即売会を開催しているのは山陰の両県だけです。

■アンケート結果

ブランド展開中、ロシアでどのような商品が好まれるのかを調査するため、来場者にアンケートを実施しました。来場者の8割が女性で、年齢層は30代以上が半数を占めていました。アンケートでは、味(品質)・デザイン・価格の三項目について、5段階で評価してもらった結果、いずれの商品も好評を得ました。

食品に限定すれば、多くの来場者が三項目とも満点をつけていました。また、出展されている商品の中で特に気に入った商品についてアンケートを行った結果、一番好評だったのは梅ドリンク。次にカレー、コーヒー、シチュー、お茶の順となりました。

特に気に入った商品



■ロシア人の嗜好

梅ドリンクはワイン風ですが、アルコールが入っていないため子供でも飲むことができ、レストランでもノンアルコールのドリンクがあまりないウラジオストクでは珍しかったようです。参加した出展者は「市内の高級レストランに売り込んでいきたい」と意気込みを語ってくれました。

カレーの出展は今年で3年目になり、毎年試食をしています。今年は特に人気が高く、ブースでは人が途絶えませんでした。実のところ、ロシアでカレーは珍しい料理で、あまり知られていませんでしたが、展示会を行う度にカレーファンが増えているように感じます。

お茶人気の背景には、ロシアでは最近健康志向の人が増えていることもあり、日本のお茶については、高品質で体にも良いというイメージを持っている人が多いようです。

■所感

今回の展示会では、宣伝広告にも力を入れました。テレビコマーシャルをはじめ、街頭やスーパーでのチラシ配布やFacebookも利用して広報を行いました。その甲斐もあって、会場はとて賑わい、完売した企業もありました。また、来場者の中には日本を訪れた経験のある人も多数おり、改めてウラジオストクと日本の近さを感じることが出来ました。

展示会で販売した商品は現在、ウラジオストク市内のスーパーで販売されています。スーパーの担当者のお話では、展示会の効果で売上げも好調とのことでした。

鳥取県産の食品は、ウラジオストク市民に良く知られています。これからも、たくさんの鳥取県産の商品が市内のスーパーで購入できるようになることを心待ちにしています。

最新上海 ～現地レポート～ 80

輸入拡大促進政策と関連法令 ～先端技術を持つ零細企業にも商機～

■ 輸入拡大促進政策

中国における様々なコストやリスクの上昇で、今年に入って第三四半期までの海外からの直接投資は、昨年同期比1.4%減の873億6千万ドル（約9兆2800億円）となった。韓国からの投資が32.5%増であったことを除いて、日本からの投資に至っては43%減、欧州連合（EU）からは18.8%減、米国からは24.7%減と軒並み対中投資の失速が見られる。

一方、貿易については、世界経済回復の影響もあり、今年7月から輸出額が昨年同期比14.1%増と伸びたが、輸入額は昨年同期比2.1%減となり、黒字拡大となった。

このような状況の中、貿易収支の均衡を保つためという大義名分の下、中国で弱体化する製造業のてこ入れと国内の消費市場拡大に対応するため、9月29日、政府の最高幹部で構成される政策決定の中枢機関・常務委員会において対応策が発表された。その内容によると、今後、中国における輸入ビジネスは、先端技術を伴う製造業、一般消費品、ECビジネス（EC：electronic commerce電子商取引）を重点的に支援していくようだ。

昨年、海外における中高級消費品の消費は約6000億元にのぼり、商務部ではこれらに対する減税の動きも見られるが、今回の政策発表においては、一般市民の生活に密接な一般消費品に対する優遇政策が確認されるに留まった。今後、この政策に関連した具体的な実施細則が次々と発表されていくだろう。

■ 設備購入に伴う税負担軽減と減価償却期間短縮

上述の政策に関連して、中国における先端技術導入と設備の刷新のために、10月20日、財政部・国家税務総局から設備購入に伴う税負担軽減と減価償却期間短縮に関する優遇税制が発表された。

全業種に対して、2014年1月1日以後に新規購

入した研究開発用の器具、設備について、単価が100万元を超えないものは、一括して当期原価費用に計上して税前控除することが認められることになった。単価が100万元を超えるものは60%の割合に耐用年数を短縮するか、または200%定率法等の方法を採用して加速減価償却することができる。単価が5,000元を超えない固定資産も、一括して当期原価費用計上が可能となった。

バイオテクノロジー等の先進技術6分野*の業種企業については、2014年1月1日以後に新規購入した固定資産は、規定年数の60%に耐用年数を短縮すること、または200%定率法等の方法を採用して加速減価償却することが認められ、研究開発及び製造の双方を促進する。

※先進技術6分野：

- ①バイオテクノロジー・製薬関連
- ②専用設備製造業
- ③鉄道関連、船舶関連、航空・宇宙関連及びその他運輸設備製造業
- ④コンピュータ、通信及びその他電子設備製造業
- ⑤計器メーター製造業
- ⑥情報伝達、ソフトウェア及び情報技術サービス業

輸入拡大促進と中国における製造業のイノベーション化の方針が、技術力を持った日本の中小企業にも追い風となって、対中貿易促進につながることを期待される。また、一般消費品の輸入拡大については、現在、中国の港でワールド物流チェーンの設備が整備されていたり、上海以外にも自由貿易試験区を拡大していく動きが見られる。上述の輸入拡大促進政策では、水産品の輸入拡大も発表されているため、日本そして鳥取県からの水産品輸入が拡大してほしいと願っている。

中国進出日系企業レポート

「黒龍江祥業国際経済技術合作有限公司」下中雅仁顧問へインタビュー

現在、日本の多くの企業で活躍している中国人技能実習生。その存在は今では必要不可欠なものになっていると言っても過言ではありません。しかし、日本での実習には言葉を始めとして、実習環境のルール、また日本独特の文化まで、様々な問題があります。日本へやってくる優秀な中国人技能実習生はどのようにしてこうした問題をクリアしているのでしょうか。

今回は黒龍江省ハルビン市の黒龍江祥業国際経済技術合作有限公司で、顧問として活躍されている下中さんにお話を伺ってきました。



写真：下中顧問

【黒龍江祥業国際経済技術合作有限公司】
 賀業祥代表取締役のもと1997年に創業。従業員は約40名。黒龍江祥業職業技能培訓学校を設立し、海外、主に日本への技能実習生の養成教育や送り出し、帰国後の復職指導や支援等を行っている。現在日本人職員は下中さんの1名。

○御社の事業内容、また下中顧問の業務内容について教えてください。

日本各地の企業（主に縫製業、食品製造・加工業、農業、金属加工関係など）のニーズに答えて、日本での実習希望のある中国人とのマッチングを行い、日本に実習生として送り出すのが主な業務です。私は、そうした中国人実習生を養成する黒龍江祥業職業技能培訓学校で、日本人教師として、日本語や日本文化、マナー等について授業を行っています。

○具体的にはどのような授業を行っているのですか。

前職を退職した後、日本語や日本文化を海外で伝えたいという思いがありました。そこで、学校では日本語のネイティブスピーカーとして日本語の授業を行っているほか、日本の文化やマナーを日本人の視点から伝えています。中国と日本は近いようで、文化やマナーはかなり違ってきます。例えば、最近授業で話したのは「テーブルマナー」についてです。中国では食べかすなどをテーブルの上に残したままにする人が未だにたくさんいますが、日本ではこうした振る舞いはNGです。このような点をしっかりと伝えていき、日本へ行く中国人実習生と受け入れる側の企業様との間のギャップやストレスを減らしたいと考えて授業をおこなっています。



写真：学校（外観）

○実習生の皆さんの反応はいかがでしょう。

中国人は基本的に勤勉ですし、実習生たちは日本での実習を希望しているだけあって、日本に興味をもっていますから、最初は戸惑うこともあるようですが積極的に聞いてくれますね。

○現在の日本への実習生派遣の状況を教えてください。

日本の縫製工場を中心として、食品製造・加工業、金属加工関係の企業様からの需要がメインとなっています。ただ、現在は日本の企業様からの需要に供給が追いついていないのが現状で、まとまった数の技能実習生の獲得に奔走しています。

○技能実習生数の減少には、日中関係の悪化が影響していると思われませんか。

日中関係の悪化の直接の影響はないと思いますね。主に、次の二つの原因が考えられます。1つ目は、以前に比べ日本で実習することのメリットが減ってきたことです。中国でもだんだんと経済が発展してきていますから、もちろん日本の給料には及ばないにしても、それなりの所得を獲得できる職業も増えているので、わざわざ国を離れて実習しに行くメリットをあまり感じなくなっているようです。2つ目の原因は、中国における少子化です。中国は一人っ子政策を行ってきましたから、現在ではかなり少子化が進行しており、そのせいもあって現在の親世代は自分の子供が海外に出ていってしまうことに反対する人が多いようです。親の甘やかしも最近顕著になっているようです。

○中国で働いてみて、どのように感じられましたか。

長春も含め中国東北部の傾向かもしれませんが、仕事に真面目に取り組む人が多いと感じます。また、中国人はお金に執着するというイメージがありましたが、むしろお金に関しても誠実な人が多いです。かつて私が財布を落としたとき、すぐに拾って届けてくれたり、朝市で支払いを間違えて多く払ってしまった時も、き

ちんとお金を返してくれました。さらには、黒龍江省でもこの業界ではトップレベルのこの会社で働くことが実現し、充実した日々を過ごさせていただいています。

○最後に、今後の事業展開について教えてください。

日本の企業様からの要望に応えるため、技能実習生数を増やすことが最優先課題ですね。そして彼らの質が高まるよう、指導体制をますます整えていかなければなりません。また、新たな事業展開としては老人介護の分野等での展開が考えられるのではないのでしょうか。現在中国でも高齢化が進行しており、日本の高度な介護技術を学ぶことは中国の必須課題となるでしょう。今後はそうした分野に従事する中国人実習生を派遣したり、また中国で介護分野での市場開拓を考える企業とのマッチング等も考えられるのではないのでしょうか。

○本日はお忙しい中ありがとうございました。

取材日：2014年10月27日



写真：黒龍江祥業職業技能培訓学校の学生と。
(前列左から5人目：インタビュアー)

【鳥取県商工労働部商工政策課 遠藤】
(中国吉林省留学中)

本誌は、皆様から内容のご提案や掲載されている情報へのご意見・ご感想をお待ちしております。

公益財団法人 鳥取県産業振興機構
とっとり国際ビジネスセンター

住所 境港市竹内団地255-3

Tel 0859-30-3161

Fax 0859-30-3162

Email kaigai@toriton.or.jp

URL <http://www.tottori-kaigai.com/>